

令和7年度市町村保健事業担当者研修会開催レポート

開催日 令和7年8月19日（火）14時～16時40分 Zoomによるオンライン開催

昨年度に引き続き、今年度の研修会も、オンラインにて開催し、後日研修会動画を限定配信しました。高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施をテーマに、県国保医療課と国保連合会と共催で開催したところ、県内60市町村の他、県保健所等から申し込みがあり、161人の職員が参加しました。

○説明

広域連合から一体的実施の概要、国保連合会からKDBシステムの活用について説明を行いました。

今後も第3期データヘルス計画に基づき、一体的実施における各取組区分実施市町村数の増加、ハイリスク者割合の減少等を目指し、市町村と連携しながら、保健事業を実施してまいります。市町村におかれましては、一体的実施に取り組む上で、事業の進め方やKDBの操作等に悩むことがございましたら、いつでもお問い合わせください。

○講演 『オーラルフレイル予防～一体的実施における事業展開について～』

今年度は、宮城高等歯科衛生士学院 専任教員 小原由紀先生に、講演を行っていただきました。



宮城高等歯科衛生士学院
専任教員 小原由紀先生

口腔保健の基本から高齢期における口腔保健上の課題、取組事例やエビデンスを交えながら、一体的実施における事業展開についてお話をいただき、保健（保険）部門だけでなく、介護部門から参加された方も日頃の業務に活用いただける内容だったのではないかと思います。また、オーラルフレイルの評価方法・評価指標など、事業を進める上で悩みの多い部分の説明では、今後の参考になることも多かったのではないのでしょうか。

今回の講演をきっかけとして、口腔をはじめとするハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチの取組がより効果的に進むことを期待します。

一体的実施は、地域の高齢者の介護予防・健康づくりのための制度です。広域連合では、市町村や県国保医療課、国保連合会とも連携し、一体的実施を推進してまいります。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- ・オーラルフレイルが身体的フレイルや栄養状態、認知機能、介護認定等、多岐にわたって関連していることを知り、早期からの啓発や取り組みの必要性を強く感じた。
- ・オーラルフレイルチェック（OF-5）や客観的評価方法、かかりつけ歯科医の有無の重要性を知ることができ、勉強になった。客観的評価方法について、事業に活用するとともに、参加者の動機づけにも活用していきたい。
- ・自立した生活が送れる高齢者の増加に伴って、市町村の多職種が連携して生活習慣病の重症化予防とフレイル対策の推進に努めることが大変重要なことだと改めて学ぶことができた。
- ・県内の後期高齢者・一体的実施の状況、第3期データヘルス計画最終年度目標値等が理解できた。
- ・KDBシステムをもっと活用したいため、引き続き説明会の継続をお願いしたい。